

# PORT OF THE YEAR 2019

## 情報誌「港湾」の読者が選ぶ ポート・オブ・ザ・イヤー 2019に 釜石港 [岩手県] が決定！

(公社)日本港湾協会では、みなとに関する優れた実績や活動により、わが国の港湾・臨海部の活性化に寄与し、「みなとの元気」を高めた港湾をポート・オブ・ザ・イヤーとして顕彰することとしております。

「港湾」の読者の方々から投票をいただき、その投票数と推薦理由から、ポート・オブ・ザ・イヤー 2019に釜石港を選定いたしました。

## ポート・オブ・ザ・イヤー 2019 釜石港

### ■「みなとの元気」を高めた理由

東日本大震災から約9年経ちましたが、釜石港では、釜石港湾口防波堤や公共ふ頭の復旧が完了し、背後圏では、岩手県内の工業集積地である内陸部と釜石港を結ぶ東北横断自動車道釜石秋田線が全線開通しました。

これらに加えて、岩手県初となるガントリークレーンや、リーファー電源の設置、寄港コンテナ船社数の増加、岩手県の港湾では初めて動物検疫港へ指定されるなど、釜石港を取り巻く環境が劇的に向上しています。

このような中であって、年を追うごとにコンテナ取扱量は増加を続け、利用荷主企業数は、コンテナ定期航路開設当初の8社に対し、昨年実績で75社に急増、コン

テナ取扱量も前年比200%を超え、今年においても昨年のペースを上回る顕著な伸びを見せています。

また、ラグビーワールドカップ2019™が釜石鶴住居復興スタジアムでも開催されましたが、関連資機材の物流といった観点からバックアップするなど、岩手県経済を支える重要な貿易ツールとして、その存在感も日々増えています。

一方、釜石港周辺にオープンした魚河岸テラスが、新たな賑わい空間としてみなとオアシスに登録され、「鉄と魚とラグビーのまち釜石」を発信し、みなとから地域を元気にしており、今後より一層の賑わい創出が期待されます。



釜石港全景



ガントリークレーン



魚河岸テラス

「ポート・オブ・ザ・イヤー 2019」に選ばれた釜石港に対しては、令和2年1月22日(水)の表彰式において賞状及び楯を授与いたします。また、「港湾」3月号に同港の「みなとの元気」紹介記事を掲載します。